

平成25年5, 6月 塩田へ帰省 覚書

1. 重要伝統的建造物群保存地区 天相日記の家 江口家復元図



2. 森家 3代前の母と長男（森孝太郎、紫綬褒章受勲） 1歳のお祝い （この2年後二男の 父愛二を出産 産褥熱で他界）
写真のように精緻な筆づかい。行李の中に保存してあったのが、たまたま見つかったということである。（孝一君の奥さん談）
巻き絵（掛け軸）なので写真を撮った。



5. 塩田町町並み 久し振りの印象写真



中町から下町



中町から上町

通りには往時の賑わいは無い。空き家となっている家が多く、主を迎える日が訪れるのか 今は誰にも確たる答えがない。ただ、通学中の生徒達の明るく元気のいい挨拶は、未来への希望を繋いでくれている。そう、それは確信に近い。

6. もう一つの発見

スズコ姉が明治時代の日本地図を家の中で見つけた。

「 教室用 日本全図 」とあり、明治39年印刷 と記されている。

北は樺太はじめ北方諸島、

南は台湾はじめ南方諸島

も日本の一角を占めている。太平洋戦争をしていなかったら今もこの地図は生きていることであろう。



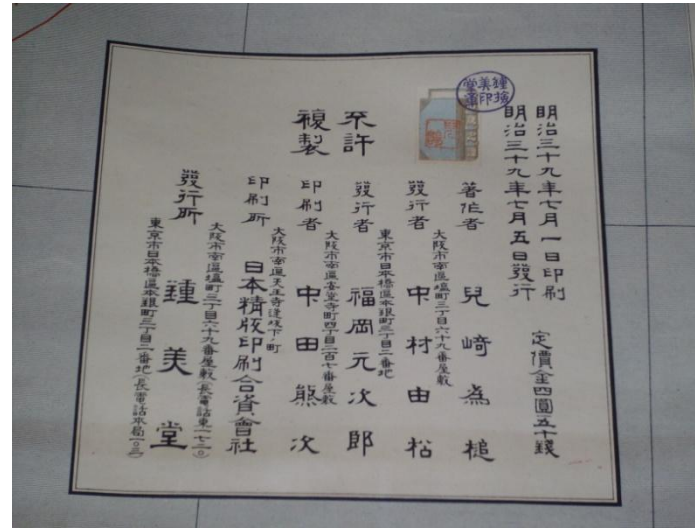
全図



樺太、北方諸島、北海道



台湾、沖縄はじめ南方諸島



地図の印刷年月 等々

ただ、過去は過去に過ぎない。捉われていては時代に取り残される。

もともと国境といっても線が引かれている訳ではない。異なる人種、民族が、それぞれに生命と財産を守るための社会を築いた結果として国家が形成され、境界線を拡張するための衝突を起こして来た。勝者と敗者がこれまでの戦争では生まれた。

しかし、大量破壊兵器が現実の物となった今の時代では、国家間の戦争を不可能にしている。即ち、それぞれの国家が主権を主張することを自制しなければならない時代を迎えている。

このことを念頭において、賢く、誠実に世界と向き合っていかなければならない。説得力を磨かなければならない。そのことのために、こうした事実を出来るだけ沢山手中に納めていることが重要である。